

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表: 令和 3年 3月 2日

事業所名 おひさまはうす

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		個別支援の為にスペースは適切に設置できている。	運動プログラムができるようなスペースを1階フロアに確保できると良い。
	2	職員の配置数は適切である	○		・保護者の方と面談を行う職員、実際にお子さんの対応をする職員など役割を分けて対応している。コミュニケーションのプログラムについては更に1名配置して対応することもある。	・現状の配置を継続することができよう今後も調整していく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	△		・エリア分けを工夫し、活動のメリハリがつくようにしている。その場所に行けば何を期待されているのかわかりやすいようにしている。	・完全にバリアフリー化されていないところがある。 ・椅子の高さが合わないことがあるので、高さが調整できるような足置きを作るなどの工夫が必要。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	△		・スタッフはもちろんボランティアの方の協力も得て消毒等は徹底している。お子さんの過ごし方によって、マットやソファを使用するなどしてリラックスして過ごすことができるよう工夫している。	・建物の構造上、冬は寒く、夏は暑いのもう少し子どもたちが過ごしやすくなるよう工夫したい。 ・建物自体の老朽化もあり、見た目に綺麗とは言えない場所もあるので修繕も検討していきたい。
業務	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		・振り返りにより職員間で現状把握、支援方法を共有し合っている。 ・定期的に職員と管理者が面談を行い、事業所としての目標や個人の目標などを確認し合える場を設定している。	・広く職員が参画するという点について、現状は職員数も少なく全員できちんと話し合いをする場(スタッフミーティング)を月1回設けることができているが、今後職員数が増えてきたときにどのように広く参画してもらうかについて検討が必要である。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・このアンケートや、保護者交流会、面談、個別療育時のやり取りなどを通して意向等を把握できるよう工夫している。	・今後も今の体制を継続できるようにしていきたい。また、現状未就学児の方が少ないこともあり、様々な活動を提供できていない状況もある。今後検討していきたい。

改善	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		・このアンケートを通してHPで後悔するなどして実施している。	・今後も現在の取り組みを継続していく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		・毎回保護者の方に同席いただいている。	・今後は虐待防止委員会の立ち上げに伴い、定期的に第三者評価を実施していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・外部研修の紹介をし、受講した職員には内容を共有する機会を設定している。それに加え、内部研修も定期的実施している。	・現在は管理者が中心となっているが、今後は現場スタッフのニーズ、ご本人や保護者の方のニーズなども聞き取り、より充実した研修の機会を設けたい。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		・個別療育時の直接聞き取りや、活動の様子などから分析している。必要に応じて、簡易の評価キットを実施したり、これまで他機関でされた発達検査などの日結果なども踏まえて作成している。	・今後もできる限り実際の様子を保護者の方と確認しながら、ニーズ(お子さん・保護者の方)を確認できるように工夫をしていきたい。 ・今後どのスタッフもある程度簡易の評価を実施できるようなスキルを身に付けたい。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		標準化されたものではないが、簡易の評価キットや、自立課題を取り入れている。	・標準化されたアセスメントツールの使用は実施できていない。そのようなツールについても研修などに積極的に参加していきたい。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		・発達支援、移行支援(就学を見据えた支援、情報の整理など)は意識的に実施している。	・家族支援については、月1回の保護者交流会を実施しているが、未就学のお子さんの保護者の方が参加しにくい曜日、時間帯になってしまっているため今後調整を検討していく必要がある。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		・保護者同席の療育を実施しているため、ある意味毎回支援計画を確認しながら支援を行えている。	・今後も保護者の方と連携しながら計画に沿った支援を実施していきたい。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・基本的に2名で担当する形態をとっており、養育終了後毎回振り返りを実施し、次回のプランを検討している。	・他業務の都合から、担当以外のスタッフから意見を聴取する期間が少ない印象がある。今後ミーティングの機会や内容を調整していきたい。

適切な支援の提供

15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・個々の課題やニーズに合わせ、日々様々な教材づくり、活動づくりにも取り組んでいる。そこで身につけたことをおひさまはうす以外の場でも応用できるようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さんの成長に伴い、机上での課題以外にも体を動かす、調理をする、簡単な家事活動をするなど様々な活動に展開していきたい。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援は個別療育が基本であることと、新型コロナウイルスの影響により集団活動が実施しにくかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大の状況によるが、同年代のお子さん同士で過ごす機会を提供していく。
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・前回の利用終了時に確認した次回へのアイデアなどを担当スタッフと必ず打ち合わせをし、その日の活動の目的や役割分担を確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も今の取り組みを継続していくことができるよう、勤務や活動の調整をしていきたい。
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の振り返りによって直接対応、支援していない職員も支援の問題や気づいたことを共有し合うことで次回に適切な対応ができるようにしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に様子を見ている担当スタッフと伝え聞くスタッフとではイメージに違いが出てしまうため、ビデオどりをしておくなどして誰もがきちんと確認できるようなことを遣唐使していった。
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・日々の活動記録以外にも、コミュニケーションサンプルや課題分析、生活記録表など、個々のニーズに合わせた記録をとり、検証できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も今の取り組みを継続することができるよう調整を行う。 ・誰でも客観的なデータを記録できるような評価についても研修も実施していく。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・必ず定期的にモニタリングをしているが、それに加え個別療育時でも家庭や他機関での過ごし方の聞き取りすることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の個別療育と、半年に1回のモニタリングだけではきちんと話す機会が少ないのではないかと感じる。それ以外にも電話対応やzoomの活用など状況に応じて臨機応変に見直し、対応できるような仕組みを検討していく。

21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・現状は基本的に管理職が参加しているが、会議の内容やスタッフ体制を鑑みて、場合によっては管理職と現場スタッフの2名で参加している。	・会議がある際にはできる限りスタッフ体制を調整し、またその対象者の状況を考え、管理職が参加するのか、現場スタッフが参加するのかを検討していきたい。
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		・町の保健福祉課と密に連携をしながら支援を行っている。気がかり児童の相談にもうまく活用していただけている印象。	・利用希望者がかなり増加してきているため、今後はお互いの役割を明確にし、保護者の方にわかりやすい体制作りを検討していく必要がある。
23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			医療的なケアが必要なお子さんの利用がない	
24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			医療的なケアが必要なお子さんの利用がない	
25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・担当者会議などの場に積極的に参加し連携を図っている。また同法人の相談事業と連携し、保育所等に訪問をしている。	・少しずつ顔を覚えていただけるようになり、良好な関係を構築できるようになってきた印象がある。今後もうまく連携を図りながらスムーズな移行支援ができるようにしていきたい。
26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・担当者会議などの場に積極的に参加し連携を図っている。	・担当者会議だけでなく、すでに在学している先輩保護者の方から情報を得ることができる場の提供も検討していきたい(保護者交流会の活用を視野に)。
27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・自立支援協議会の児童部会にて他機関と月に1回連携する機会を設けている。	・共同で研修を開催するなどしていきたい。
28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	・個別療育が中心なことに加え、新型コロナの影響により交流する機会が少ない。	・保育所に通われている方がほとんどで、交流は日常的にある。
29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		・毎月1回、当法人が取りまとめとして会議や検討会等を検討、実施している。	・今後も継続して参加し、様々な交流をしていく中で支援力の向上や連携体制の構築を検討していきたい。

保護者への説明責任等	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・基本的に保護者同席で療育を行っている為、実際に様子を一緒に見ながら共通理解を持てるようにしている。	・最近では父母で来所されるご家庭も増えてきた。今後もご家庭と連携してより良い支援と一緒に考えていきたい。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		・トレーニングのような形での実施はできていないが、毎月保護者交流会を実施している。その際には先輩の保護者の方からお話していただけるようできる限り様々な立場の保護者の方に声かけを行っている。	・よりたくさんの保護者の方にご参加いただけるよう開催日の調整をしていきたい。 ・今後研修形式も検討していく。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・契約時や見学時に管理者から詳しく説明している。	・今後も現在の対応を継続し、丁寧な説明に務めたい。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		・保護者同席でプログラムを実施しているため、毎回支援計画をもとに、確認し同意を得ながら対応できるようにしている。	・今後も円滑に連携を図れるようにしていく。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・保護者同席のため、毎回相談や必要な助言を行えるようにしている。また、場合によっては次回の療育時まで電話連絡をし、タイムラグがなく、素早く対応できるよう心がけている。	・今後も今の対応を継続していくことができるようにしていく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		・月に1回、法人に関わるどなたでも参加できる保護者交流会を開催している。	・よりたくさんの保護者の方にご参加いただけるよう開催日の調整をしていきたい。 ・今後研修形式も検討していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・申し入れがあればすぐに児発管も入ったミーティングで検討し、できる限り早く対応できるようにしている。	・対応の体制整備と合わせて、日常的に連携をとりながら小さな芽の段階で気づくことができるような工夫をしていきたい。
37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・おひさま通信や会報を通して情報発信をしている。また保護者交流会でも定期的に活動報告を行っている。	・他機関との連携行事なども安定的に日常の活動に組み込むことができるようになってきたため、連絡体制等の整理をしていく。	

38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報に関する書類に署名捺印いただき、スタッフにも誓約書にサインをしている。また、他機関との連携も増えてきたため上記の取扱いはより厳重に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の取り扱い方を徹底し、細心の注意を払って対応していく。スタッフも増員してきているため改めて周知徹底を心がける。
39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的なコミュニケーションシステムや構造化のアイデアを活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いわゆる知的にグレーなお子さんから高機能タイプのお子さんに対する支援ツールについて今後スタッフがスキルアップしていく必要があると感じている。研修に参加するなどしてスキルアップをしていきたい。
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度に関しては新型コロナの影響により招待する活動は実施できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の民生員の方と連携していくなどして今後も地域に開かれた運営を目指していく。 ・利用する子どもたちのアート作品を展示するなどの企画も検討していきたい。

非常時等の対応

41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		・マニュアルは作成しており、定期的に他機関と情報交換を行っている	・保護者の方にその取り組みを周知できていない現状がある為、その点をどのようにするか検討していく
42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・定期的に消防訓練を行っている。また、スタッフが利用する子どもたちの動きを想定しながら避難経路の確認を行っている(その場で待つことが難しい方は車に乗車してもらうなど)。	・スタッフのみの訓練がほとんどのため、子どもたちとの訓練を実施したり、療育の中で非常時の対応について学ぶ機会を設けるなどしていきたい。
43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		・そのような対応が必要な方については、日々の支援の中で必ず保護者の方に状況を伝えている。場合によっては相談事業と連絡調整を行いながらきちんと服薬できているのかなど確認をおこなっている。	・現状の対応を継続していくとともに、関連する機関(相談、医療など)との連携を密に行っていく。
44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・フェイスシートに記載していただくようにしている。ただ、現状石の指示書などが必要な方の利用はない。	・配慮が必要なお子さんが利用される場合は関係機関と連携しながら対応を徹底していく。
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・少しのこと、かなり細かいことについてもスタッフが気になった時点で必ず記入してもらい、毎回回覧で他スタッフも確認できるようにしている。大きな事案についてはスタッフミーティング等で検討している。	・スムーズな回覧方法の検討が必要。個人情報にも配慮が必要なため取り扱いには十分注意して検討していきたい。
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・内部研修で虐待防止について学ぶ機会を設けたり、日々の支援の中で自分たちの関わり方を振り返る場を設けている。	・次年度、虐待防止委員会の立ち上げに向けて現在準備中。
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		・そのような対応が必要なお子さんがおられない。また基本的に保護者同席で支援を行っている為そのような必要がない。	・やむ終えずそのような対応が必要な方が利用される場合は、マニュアルに従い対応していく。

